

***DIRECTSTAR***  
バージョンアップ手順書

【対応機種】	Aterm DR30F/GS、Aterm DR35FH/GS
【ソフト名】	Aterm DR30F/GS、Aterm DR35FH/GS ファームウェア
【著作権者】	NEC アクセステクニカ株式会社
【対象ユーザ】	上記の装置をご使用のお客様
【転載条件】	転載禁止

## 目次

---

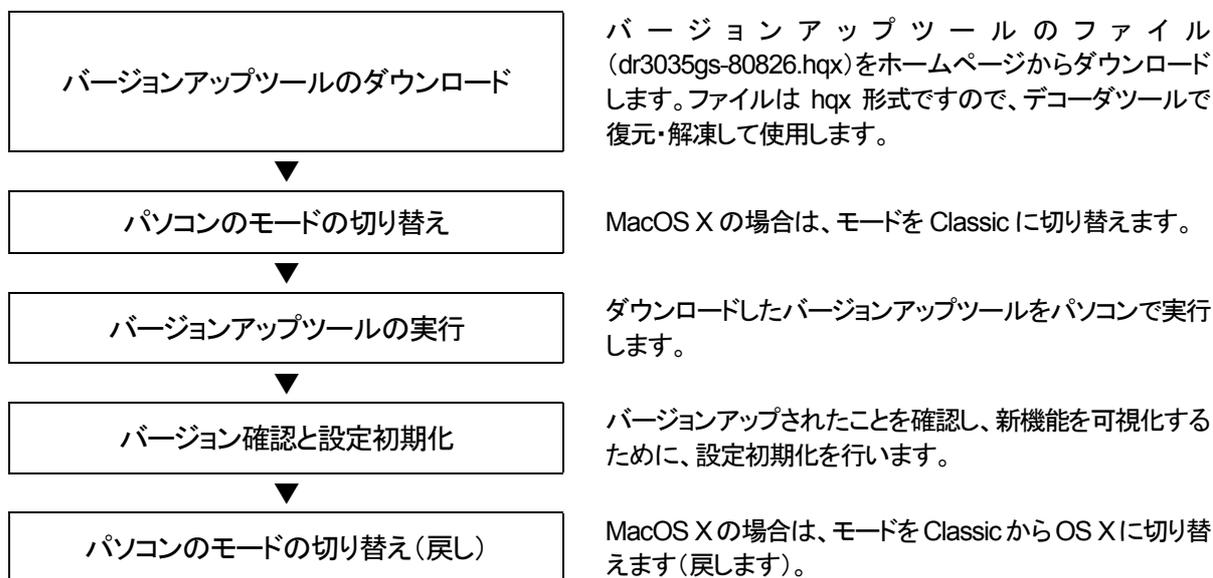
	ページ
はじめに .....	2
Aterm DR30F/GS、Aterm DR35FH/GS ファームウェアバージョンアップ手順 (Macintosh®編) .....	3
(1) パソコンのモード切り替え .....	3
(2) バージョンアップツールの実行 .....	4
(3) バージョン確認と設定初期化 .....	6
(4) パソコンのモード切り替え(戻し) .....	9

## はじめに

本書では、Aterm DR30F/GS、Aterm DR35FH/GS のファームウェアバージョンアップ手順について説明します。

### 【ファームウェアバージョンアップ手順】

Aterm DR30F/GS、Aterm DR35FH/GS ファームウェアのバージョンアップは次のような手順で行います。



### 【ファームウェアバージョンアップ時のご注意】

- 当社は、本ソフトウェア製品の仕様または使用不能から生じる一切の損害(逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失またはその他の金銭的損失を含みますがこれらに限定されません)に関して一切の責任を負いません。たとえ、当社がこのような損害の可能性について知らされていても同様です。
- ダウンロードしたファイルは hqx 形式のファイルです。hqx をデコード可能なユーティリティソフトウェアで復元・解凍してご使用ください。
- バージョンアップする時に、ADSL 回線の電話コードを外す必要はありません。
- バージョンアップ開始後、完了の表示が出るまで絶対に装置本体の電源を落とさないでください。途中で電源を落とすと装置本体のファームウェアが破損し、復旧不可能な状態となる場合があります。
- バージョン情報の last stored の後に表示される日付・時刻情報は、バージョンアップされた日付・時刻が記録されたものです。本情報は本装置が内蔵する時計機能に基づき付与されますので、日付・時刻の設定が正しくないと、バージョンアップされた日付・時刻が実際の時刻と異なることとなります。バージョンアップした日付・時刻を正確に記録するには、バージョンアップ作業を行う前に、予め本装置の日付・時刻を現在時刻に合わせてください。

• Macintosh® は、米国 Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

• Acrobat® Reader は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

• その他の各会社名および各製品名は、各社の商標または登録商標です。

## Aterm DR30F/GS, Aterm DR35FH/GS ファームウェアバージョンアップ手順 (Macintosh® 編)

### (1) パソコンのモードの切り替え

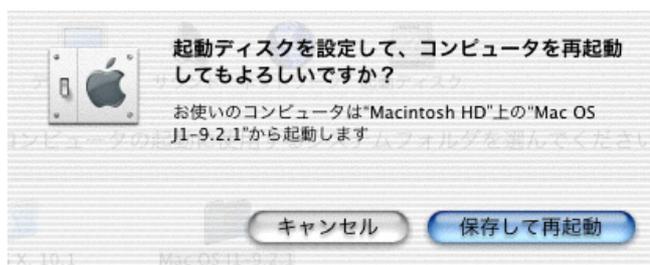
OS が MacOS X の場合は、Classic モードに切り替えます。

- ① [アップル]→[システム環境設定]を選択し、  
[起動ディスク]アイコンをクリックします。
- ② MacOSJ1-9.X を選択して、[再起動]ボタンをクリックします。

※ OS のバージョンによっては[再起動]ボタンが表示されません。その場合は MacOSJ1-9.X を選択後、[起動ディスク]の画面をそのまま閉じて、[アップル]→[再起動]を選択します。



- ③ [保存して再起動]ボタンをクリックします。



## (2) バージョンアップツールの実行

- ① ダウンロードしたファイルを解凍(デコード)ツールで解凍すると、Versionup Tool フォルダが作成されます。そのフォルダ内のプログラムファイル(VupTool)を実行すると、バージョンアップユーティリティが起動します。本装置のIPアドレス、ログイン名、パスワードを入力します。

本装置の初期値は

ログイン名 : config

パスワード : (無し)

IP アドレス : 192.168.0.1

ですが、変更している場合は、変更後の値を入力します。

[次へ]ボタンをクリックします。

- ② [実行]ボタンをクリックします。

**[注意!]**

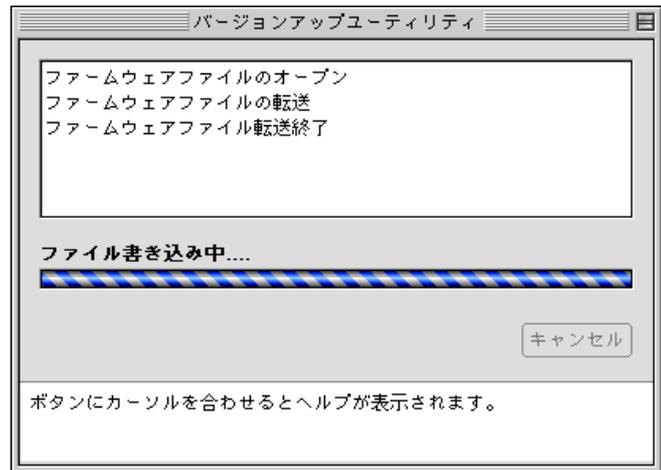
**ファームウェアファイル名は変更しないでください。**

- ③ バージョンアップの準備が開始されます。

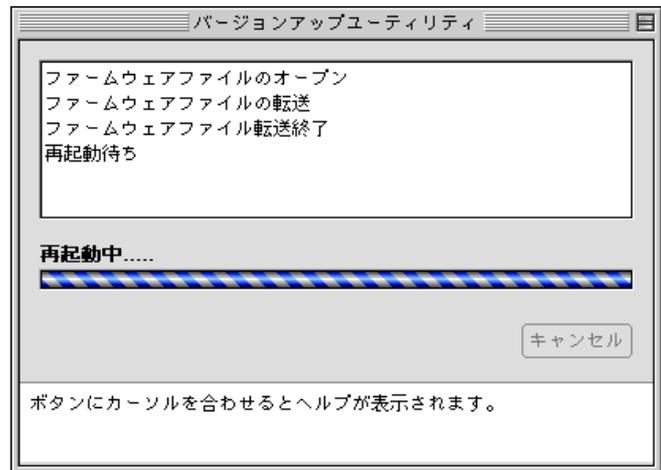
**[注意!]**

**バージョンアップ開始後、完了の表示が出るまで絶対に装置本体の電源を落とさないでください。**

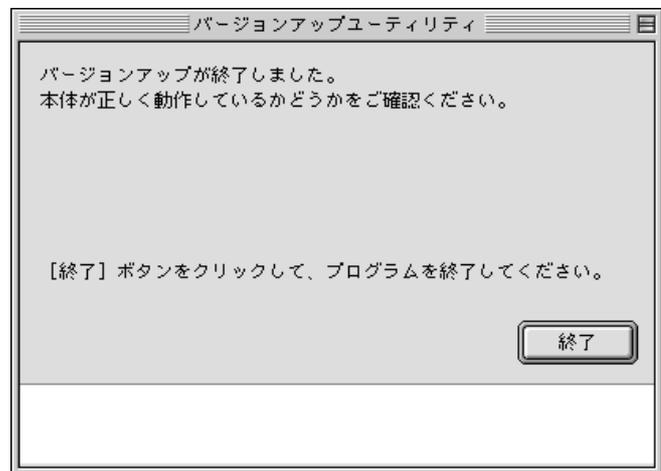
- ④ ファームウェアの転送が終わると、ファームウェアの書き換えが行われ、バーグラフが右いっぱいまできたままの状態が 30 秒～1 分程度続きます。



- ⑤ ファームウェアの書き換えが完了すると、自動的に装置をリポートします。装置リポートがかかると、装置本体の LINE ランプが一旦消灯します。LINE ランプが点滅開始すれば再起動完了です。



- ⑥ [終了]ボタンをクリックして、バージョンアップを終了します。



### (3) バージョン確認と設定初期化

- ① Webブラウザで、本装置のURL(アドレス)を指定して、本装置にアクセスします。

IP アドレスが初期値の 192.168.0.1 の場合、URL は `http://192.168.0.1/` ですが、IP アドレスを変更している場合は、その IP アドレスに従って URL を指定してください。



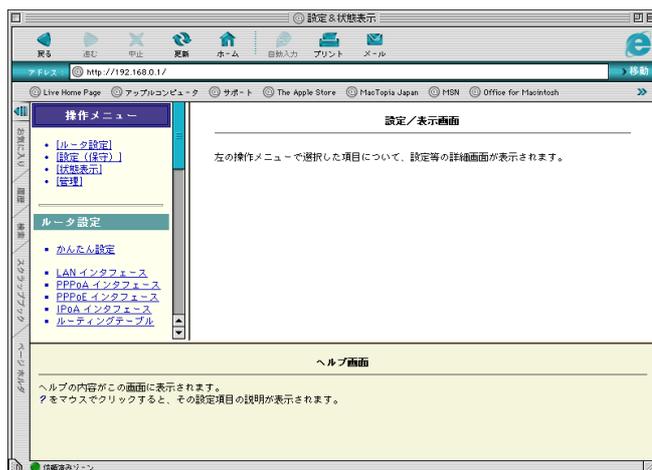
- ② ログイン名(ユーザ ID)とパスワードを要求されるので、設定している値を入力します。初期値は、

ログイン名(ユーザ ID) : config  
パスワード : (無し)  
です。

[OK]ボタンをクリックします。



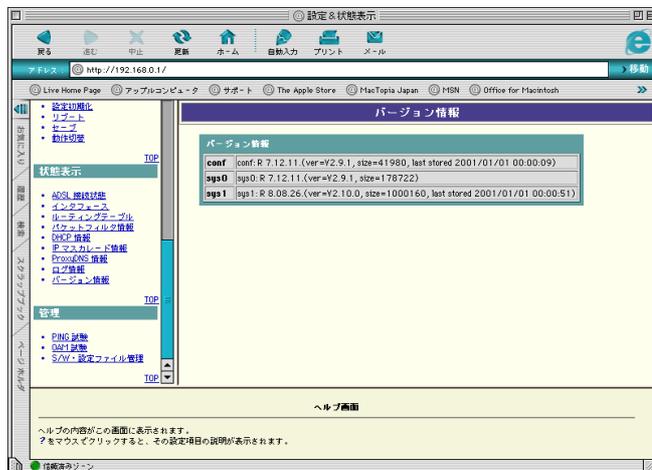
- ③ 本装置の「設定／表示画面」が表示されます。



- ④ Webブラウザで、操作メニューの「状態表示」→「バージョン情報」をクリックします。「sys1」の欄が

「**sys1:R 8.08.26**」  
となっているのを確認します。

バージョン情報の last stored の後に表示される日付・時刻情報は、バージョンアップされた日付・時刻が記録されたものです。本情報は本装置が内蔵する時計機能に基づき付与されますので、日付・時刻の設定が正しくないと、バージョンアップされた日付・時刻が実際の時刻と異なることとなりますので予めご承知おきください。



- ⑤ 旧バージョンのファームウェアでセーブされた設定が残っていると、新ファームウェアの新機能が使用できないままとなります。そのため、一旦設定初期化を行います。操作メニューから「設定(保守)」→「設定初期化」をクリックし、「設定を初期化する」ボタンをクリックします。

**[注意!]**

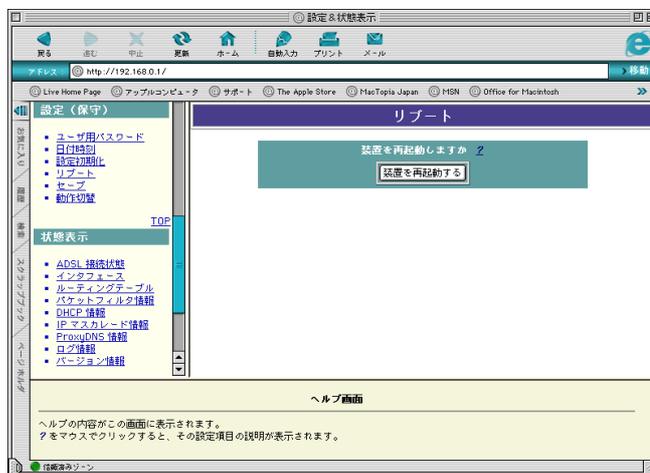
「設定初期化」を行うと、PPP のパスワードを含め、全ての設定が初期化されますので、再度設定をやり直す必要があります。



- ⑥ 設定初期化が完了すると、右のような画面表示となります。



- ⑦ 操作メニューの「設定(保守)」→「リポート」をクリックし、メインウィンドウの[装置を再起動する]をクリックすると、数秒後装置が再起動を開始します。



- ⑧ 装置本体の LINE ランプが一旦消灯し、LINE ランプが点滅開始するまで待ちます。



- ⑨ Web ブラウザで、再度、http://192.168.0.1/ にアクセスします。設定が完全に初期化されていますので、スタートガイド・詳細ガイドに従って、設定を行ってください。

本装置の IP アドレスを変更していた場合は、設定初期化によって 192.168.0.1 に戻ります。必要に応じて、パソコンの設定を変更してください。

本装置をリポートすると日付・時刻が初期化されます。スタートガイドにしたがって、日付・時刻を再設定してください。



#### (4) パソコンのモードの切り替え(戻し)

OS が MacOS X の場合は、Classic に切り替えたモードを OS X に戻します。

- ① [アップル]→[コントロールパネル]→[起動ディスク]を選択します。

Macintosh HD の左側の ▶ をクリックします。



- ② バージョンが Mac OS X 10.X になっている Macintosh HD: システムフォルダ を選択して、[再起動] ボタンをクリックします。



- ※ パーティションを区切って、Mac OS X をインストールしたなど、OS のインストール方法によっては画面が異なる場合もあります。その場合、バージョンが Mac OS X 10.X となっている System を選択して、[再起動] ボタンをクリックします。  
右例の場合は Mac OS X の左側の ▶ を選択後、Mac OS X System を選択します。

